

ことばの教室だより

白岡市立篠津小学校

平成30年9月号

どの学校も、2学期スタートと同時に運動会へ向けて猛ダッシュといったところでしょうか。子どもたちは、新しくエアコンが入った教室で、今までより快適に体を休めることができていることと思います。体調に気をつけながら、それぞれのベストを尽くして力を発揮できるよう応援しています。



今年の夏休みも様々な会に参加し、研修を受けたり、話を聞いたりすることができました。いくつか紹介させていただきます。

県立特別支援学校大宮ろう学園 夏季公開講座～はじめての手話～

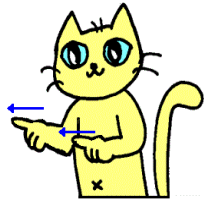
高等部専攻科の生徒さんたちが指導者となって、あいさつや自己紹介の仕方を教えてくださいました。それぞれの手話の由来を教えてくださいましたと、とても興味深く、楽しく覚えることができました。

「佐藤」



右手のひらを口の前にあて、2回ほど回す。(砂糖と同じ「甘い」という表現)

「加藤」



両手とも人差し指で右斜め前を指さし、前方に出す。(加藤清正が槍の名手だったことから)



埼玉

手を向い合せるように上下に置いて、玉を間に挟んで転がすような仕草をする。



新潟

両手のひらを上に向け、小指側をこするように交互に前後に動かす。(港に出入りする船の様子)



茨城

両手を胸で交差させ、そのまま肩をパッパッとはらう。(水戸浪士が着ていた蓑を表す)

教育相談・個人面談

「発音が少し気になるけど…」「様子を見ていれば、そのうち治るかしら」など、心配はあるけれど、どうしたらよいか分からずに悩んでいる保護者の方が多いように思います。逆に「聞き慣れてしまっているので、気が付きませんでした」と発音の誤りに気付いていない保護者の方もいます。2学期の教育相談や個人面談はよい機会となりますので、気になっていることがありましたら、話題にしていただけるとよいと思います。



親、教師、言語聴覚士のための吃音講習会

子どものレジリエンスを育てる どもる子どもとの対話

「若き消防士のレジリエンスを探る」



2日間の講習会のなかで、吃音と向き合いながら夢であった消防士となって、現在お仕事されている方のお話を聞く機会がありました。

大学生の時、「どもる自分が緊急の連絡や報告が多い消防士になってもいいのか」と相談したところ、「どもることでの苦勞はどんな仕事についても出てくる。自分のしたい仕事で苦勞した方がいい」と言われ、消防学校へ進み、そして消防庁に合格したそうです。消防学校でも「どもりを治せ」や「人の命を守れるのか？」など言われ、過酷でつらい思いをしたときもありましたが、両親やまわりのどもる先輩たちに相談しながら、困難な状況乗り越えていったといいます。彼を支える両親も、悩んだときにはまわりの人に相談していたとそうです。小学生の頃から、吃音と向き合い、吃音について語り合い、学習してきたことに合わせて、相談できる大人がまわりにいたことが、彼の「吃音を生きる力」に結びついているということを感じました。吃音に限らず、「レジリエンス（困難な状況にもかかわらず、しなやかに適応して生き延びる力）」を育てていくために、人間関係の大切さを再認識しました。

埼玉県特別支援教育研究会草加大会

特別講演「脳科学で読み解く：ペアレンティングで変わる発達障害」

文教大学 成田奈緒子 先生

脳と心と体は関連しあっており、脳の発達には順序が大切です。

- ①からだの脳＝生きるための脳（寝て起きて体を動かす）
- ②おりこうさんの脳＝人間らしさ脳（言語や微細運動、勉強、スポーツ）
- ③こころの脳＝社会の脳（社会での成功、幸せ）



つまり土台となる脳をしっかりと育てることが重要で、正しい生活（寝ること、食べること、体を動かすこと）を続けることにより、どんな子でも何歳からでも、脳は立て直せるといいます。そのために望ましい睡眠時間は、幼児10～13時間、小学生9～11時間だそうです。小児科医で医学博士でもある先生の、最新の脳科学の研究データを交えたお話は「細胞レベルで脳を育てる」というものでしたが、聞き慣れた、「早寝早起き朝ごはん」「寝る子は育つ」にも通じる説得力のある内容でした。

ひまわり

- ・月が出るのをためらい（＝いざよい）ながらのぼる「十六夜」
- ・まだかまだかと立って待つ「立待月」
- ・待ちくたびれて座ってしまう「居待月」
- ・もう寝てしまう「寝待月」



昔の人々は月の満ち欠けで月日を知り、農作業を進め、月の明かりをたよりに暮らしていました。昔の暮らしを思いながら、月を眺めてみても楽しいですね。

随時受け付けています！

白岡市教育委員会
0480-92-1111（代表）
篠津小学校ことばの教室
0480-91-0017（直通）

